



# 子どもの貧困を考える ネットワークニュース

2021年12月号

隔月発行

発行: 子どもの貧困問題

大阪ネットワーク理事会

## 『まごころ米』送料カンパありがとうございました ～大阪府内のフードバンクなどへ届けることができました～ カンパをいただいたみなさまへ

このたび、福島・千葉の農民連よりお米の提供をいただきました。これを「まごころ米」として子ども食堂ならびにフードバンクに配布したところ、市民のみなさまから心のこもった感謝の言葉をいただきました。私たち「子どもの貧困問題大阪ネットワーク」として本当にやりがいのある活動ができ嬉しく思っています。

私たちの団体としてせめて「配送料」の負担をさせていただくことにいたしました。年度当初、予算化もされていない中で、個人・団体の会員のみなさまにカンパを訴えさせていただきました。

皆様からたくさんのご支援をいただき、約30人の方から21万3千円のカンパをいただき、配送料のかなりの部分を賄うことができました。

心より感謝しております。遅くなりましたがお礼を申し上げます。

行政には本来の責任を果たすよう要請しておりますが、今後も私たちの活動をご支援くださることを心からお願いいたします。

子どもの貧困問題大阪ネットワーク 理事長 中田進

## 農水省近畿農政局へ「子ども食堂の実情を知ってほしい」と要請

11月2日、食料を守り日本農業再建をめざす大阪府民会議、子どもの貧困問題大阪ネットワーク、農民組合大阪府連合会の3団体・7名が共同で、農水省近畿農政局大阪府分室に対し「家族農業を守り、食料自給率の向上を求める要請」交渉を行いました。

地方参事官からは、コメの下落による対策として、「経営所得安定対策」や「収入保険」制度があり、これを生かしてほしい、困窮者への支援として15万トン提供することになっているなどと発言しました。参加者からは『「コメ農家は、コメ価格の暴落でコメ作りを止める』という地方の稲作農家の声を聞いている』、「地域の『子ども食堂』など深刻な現場を見に来てほしい』、「15万トン程度では価格暴落対策には不十分』、「原油価格が上昇して野菜農家などに大きな影響が出てる。」などの発言がありました。最後に参事官から「みなさまのご意見を上にも伝えたい。」と発言し終了しました。

## コロナ禍に苦しむ人々に 食糧を支援する施策を求める請願書名 ご協力ありがとうございました

長期化するコロナ禍、府内で取り組まれている食料支援やフードバンクには、職と住まいを失い、食べることもままならない人々が多数訪れ、さまざまな食料の配布が歓迎されています。

その一方で、農産物の需要が減少し、過剰在庫による価格低迷に農業従事者が苦しんでいます。米作では需要減を理由に史上最大の生産量の削減が実施されています。食べられない人々がいる一方で米を作らせない、こんな矛盾はありません。引き続き、コロナ禍に苦しむ人々への支援など取り組みをすすめます。

## ～ネットワーク継続加入のお願い～

2月12日(土)「定期総会&全体会議」をオンライン開催します。会員のみなさまは、ぜひご参加ください。(詳細はピラを参照ください)

また、引き続き会員の継続をお願いいたします。

\*\*\*ニュースに関する問い合わせ\*\*\*  
[niki@osaka-jichiroren.jp](mailto:niki@osaka-jichiroren.jp)